

○議長（前原英石君） ただいまの出席議員数は7人です。定足数に達していますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

5番 森 弘秋君。

○5番（森 弘秋君） 私からは、通告してあります高齢者の生きがいの創出の発想の原点について伺います。

過日4月7日の新聞報道によれば、村長の公約である役場改革として「笑顔」のバッジを取り入れ、明るく笑顔あふれる役場づくりとして、職員は笑顔のバッジをつけているが、職員の反応、成果、また村民の評判はいかがですか。期待をしております。

ところで、村民の中に、村は子育てに力が入っているというよい評判がありますが、高齢者はどうなりますかという疑問もあります。

高齢者にも夢を与えよう。子育てに力が入っている舟橋村であるからこそ高齢者を置き去りにしてはいけないの観点からではなかろうかと思えます。決してそうではないのだろうが、高齢者にとっては、そう見えるのだらうと思えます。

老人福祉法第2条。老人は、多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として、かつ、豊富な知識と経験を有する者として敬愛されるとともに、生きがいを持てる健全で安らかな生活を保障されるものとする。第3条1項。老人は、中略します。常に心身の健康を保持し、又は、その知識と経験を活用して、社会的活動に参加するように努めるものとする。これが大事なんですね。

村長は「高齢者にも安心な村づくり」として高齢者の生きがいの創出と言っておられるが、村長は全力でどんな汗をかかれるのですか。

富山県の高齢化率、65歳以上を調べましたら、4年10月1日現在、富山県33.2%、舟橋村は19.5%。近隣の市町は、高齢化率を調べたら、上市町が38.1%、立山町34%、滑川市30.4%、富山市が30.5%であります。おおむね3人に1人が高齢者です。

一番高い町ちゃ、どうですかね。朝日町46%。朝日町の令和3年の人口1万850人、人口の約半分の約5,000人が高齢者、65歳以上ですね。次いで、氷見市40.5%。人口が約4万3,000人、1万7,400人が高齢者です。びっくりですね。次いで、南砺市40.1%。以下、順に、小矢部市38.7%、入善町38.4%、高岡市が34.9%と続きます。まさに少子高齢化社会であります。

ちなみに、令和元年10月1日現在を調べましたら、富山県が、3年前ですかね、3

2.3%、舟橋村が20.3%、上市町36.4%、立山町32.8%、滑川市30%、富山市29.8%でありました。

なぜこれを言いましたかといったら、調査に見えますように、舟橋村は断トツに高齢化率が低い。何と20.3%から、逆に19.5%に下がっている、0.8%ね。こういう舟橋村は、数字から見れば、うれしい数字であります。

しかし、喜んでばかりおられません。今は低いですが、村民の皆さん方も、いずれ、ごめんなさいね、年を取ります。10年、20年先を考えねばなりません。

令和3年、3,179人で、高齢者は約600人。皆さん元気で活躍をしておられます。しかし、5年、10年と先を見据えると、予断を許しません。今のうちに高齢者の生きがい対策を考えねばなりません。元気でいてもらいたいものです。

高齢者の皆さんは何を望んでいるか。高齢者の生きがいと夢は。また、事業、どんな行事ですかね、何がよいのか。

村長の言う高齢者の生きがいの創出を考えねばなりません。高齢者は何を望んでいるのか。高齢者に生きる勇気を、そして活力を見だし、生活を豊かにしてあげねばなりません。

高齢者の遊び場、高齢者の健康づくりとして今盛んな行事、遊びは、カローリング大会、ニュースポーツ、ペタンク、ビーチボール、フレッシュテニス、ボッチャ、パークゴルフもそうですね。eスポーツ等があります。

県下で実施されている高齢者の老人大会なるものを調査しました。県内では、老人クラブ大会と銘打ち実施している市町は、富山市、高岡市、魚津市、滑川市、砺波市、小矢部市、射水市、上市町。残念ながら舟橋は入っていません。

各活動は、さきに述べたとおりであります。中でも上市を見たら、高齢者福祉大会と称して大運動会が実施されております。

そこで、年に1回の大きな大会「舟橋村老人大会」の企画、開催。老人クラブ連合会共催。スポーツ推進員の協力を得ながら実施したらいかがですか。

村にあるウォーキングコースなどの活用もあります。せっかくのウォーキングコースでありますので。しかし、現在も使われていないといっても、過言ではありません。

また、ご存じのように、国が持ち回りで老人大会を実施しております。今ほども述べましたが、県では昨年10月、第52回老人クラブ大会、第43回老人若返り祭りが実施されており、舟橋村も芸能大会に出演しております。

日本一面積の小さい舟橋村で一躍有名になった村であります。老人大会でも先駆者となりましょう。子育てに力が入っている舟橋村であるからこそ、この施策も重要であると考えます。

最後に、高齢化時代を迎え、今まで一生懸命頑張り、時代を築いてきた人たちに光あれ。

終わります。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） 5番森議員の、高齢者の生きがい創出の発想の原点についてお答えをさせていただきますが、冒頭に笑顔バッジの件、触れていただきました。こちら、以前より笑顔が増えたものというふうに、私自身、感じております。ぜひともこのバッジに触れて、会話の一つの種として明るい役場にどンドンとなっていていただきたいなというふうに常日頃感じております。

それでは、ご質問のご答弁をさせていただきます。

高齢者の方々における生きがいについて、私は社会的なつながりや役割を持つことが非常に重要であると考えております。その点は、ひいては富山県が推進するウェルビーイングそのものであると感じております。

現在、舟橋村の高齢者の方々の社会的なつながり、役割という意味においては、舟橋村の老人クラブ連合会寿会や舟橋村シルバー人材センター等、様々な組織がその役割の一端を担っているものと考えております。

当村においては、小さな村・自治体ということもあり、各組織体において同様の方々が重複して参画をいただいております状況であり、高齢世代間の横の社会的なつながりは他の自治体の方々よりも非常に強固であると認識しております。

その上で、さらなる生きがいの創出につきましては、今ほどお答えいたしました世代間の横断的、横のつながりだけではなく、縦断的なつながりが必要と考えております。ご高齢の方と青年世代や、さらに若い若年層の世代との縦断的なつながりを構築していく必要があると考えております。

ご高齢の方々には、多くの知識や経験、技術を習得しておられます。過去に就労しておられました仕事を通じて、そのほか長らく継続している趣味などを通じて、さらには日常生活を通して、私ほどの青年世代の人間と比較しても、圧倒的な知識や経験、技術を有しておられると考えております。それは、一朝一夕では得られない、貴重な財産であ

る感じております。

私の考えといたしましては、ご高齢の方々が得られている様々な財産を各世代の方々と共有できる機会を創出することで、生きがいの醸成につながるものと考えております。

社会福祉協議会さんや小中学校、子育て支援センター、学童保育施設などの協力も得まして、幅広い世代の方がコミットできる事業において、高齢の方々が中心となっていただき、そのような貴重な財産の共有を図っていただきたいと考えております。

既にある一例で挙げますと、農家の方による農業体験指導のように、大工の方であればD I Yの体験事業、そして日本の古くからある「もったいない」の精神を基にしたことであれば、料理という分野においても生かせる知見があるのではないかと思います。昔ながらの調理方法を通じて、食材ロスの指導などもできるのではなかろうかと感じております。

具体的な回答には至っておりませんが、今ほどのような、ご高齢の方々の財産を生かすというような方向性で、今後、具体的な施策の検討を進めてまいりたいと考えております。

あわせて、老人クラブ連合会さんとの、そういった組織体との共同での事業の開催も今後検討を進めてまいりたいと考えております。

以上、各位におかれましても、ご意見等賜りますことをお願い申し上げまして、答弁とさせていただきます。

○議長（前原英石君） 森 弘秋君。

○5番（森 弘秋君） 今ほど村長から、横断的、縦断的に一生懸命やっていきたいというふうな言葉がありました。

横のつながり、縦のつながり、老人クラブを介して、そこで、これは別に答弁は要りませんが、お願いですがね、お願い。お願いですが、一遍に大きな大会をやっても難しい。だから、例えば、予算もありますから、ミニ大会なるものを一回起こして、それをきっかけに運動を進めていくと。そうすれば、あ、老人の私たちはここに出てくれば、こんないいことあったな、あんないいことあったなということをお互いに思って、次の大会なり、そういったものがやりやすくなるというふうに思いますので、よろしく願いいたします。